



【CM-03】

** 2018 年 5 月（第 9 版）

* 2017 年 8 月（第 8 版）（新記載要領に基づく改訂）

医療機器承認番号：20300BZY01003000

機械器具 29 電気手術器

管理医療機器 高周波処置用能動器具（JMDN コード：70662000）

*（電気手術電極ホルダ JMDN コード：35043000）

ディスポ ハンドコントロール プラス

（メス先電極）

再使用禁止

【警告】

＜適用対象（患者）＞

- * 1. 心臓ペースメーカ・植込み型除細動器等の医用電気機器を体内に埋め込んでいる患者には、十分に安全を確認した上で使用すること。[電気手術器からの出力電流の干渉によりペースメーカの停止、固定レート化、不整レート等の動作不良および心室細動等の危険性があるため。]

* ＜使用方法＞

1. 電気手術器は正常な使用であっても、アクティブ電極から火花が発生し、また高温となるため可燃性物質に引火し、燃焼・爆発する危険がある。そのため、以下の物質が存在する場合は、電気手術器を使用する前に適切に除去すること。[引火・爆発した場合、火災の発生や患者および手術スタッフに重大な損傷を与えるおそれがあるため。]
- (1) 酸素濃度が高い雰囲気、可燃性麻酔ガス、酸化ガス（亜酸化窒素 N_2O 等）が存在する場合は吸引・除去する。特に胸部または頭頸部等の手術においては、必ず吸引・除去すること。
- (2) 身体の下、へそ（臍）などの身体の窪み、ちつつ（臍）のような体腔に可燃性溶液（アルコール含有消毒剤等）が蓄積する場合は拭き取る。
- (3) 手術用ドレープの下に可燃性溶液（揮発したものを含む）が蓄積しないように注意する。
- (4) 体内ガスの発生が懸念される場合は、腸内洗浄を行い、不燃性ガスを注入する。
- (5) 可燃性薬剤で清掃や消毒した場合は十分蒸発させる。
- (6) 溶媒および接着剤は十分蒸発させる。
- (7) 術野に乾燥したガーゼや綿がある場合は、電気手術器を出力する前に除去する。

【禁忌・禁止】

＜適用対象（患者）＞

- * 1. 術部またはその近傍において、血栓またはその他の損傷が発生するおそれがあるため、次のような症例には使用しないこと。
 - (1) 指のような末梢部
 - (2) 環状切除術（包茎手術）
- 2. ステンレス鋼に対して感作やアレルギーを示す可能性のある患者。[ニッケル・クロムを含むため（ループ電極を除く）。]

＜使用方法＞

1. 再使用禁止。
2. 再滅菌禁止。
- * 3. メス先電極を合成ゴムチューブ等でカバーしないこと。[メス先電極の火花で引火する可能性があり、術者や患者に熱傷を引き起こすおそれがある。]

【形状・構造及び原理等】

＜形状＞

1. 本品は、電気メスの出力端子（メス先電極）であり、製品の一例を以下に示す。メス先電極には通常タイプ、コーティングタイプ、絶縁タイプの 3 種類がある。全製品の製品名、規格等はカタログを参照すること。



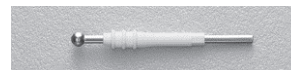
型番：138100
ブレード（ヘビータイプ）



型番：139100
ブレード（ヘビータイプ）
コーティングタイプ



型番：138102 ニードル



型番：138103 ボール



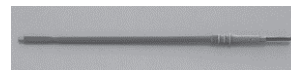
型番：138104
ブレード絶縁タイプ



型番：139112
エクステンブレード 10cm
コーティングタイプ



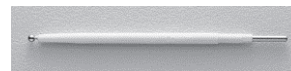
型番：138107
エクステンブレード 15cm



型番：139110EXT
エクステンブレード 15cm
コーティングタイプ



型番：60-5180-102
ループ電極（15×10mm）11cm



型番：60-5181-102
ボール電極（3mm）10cm

＜組成＞

タイプ	部位	材質
ループ電極	電極部	タングステン
上記以外のメス先電極	電極部	ステンレス鋼（ニッケル・クロムを含む）
	コーティング	シリコーン樹脂（コーティングタイプのみ）

＜作動・動作原理＞

高周波電流を生体組織に流し切開・凝固効果を得るモノポーラタイプのメス先電極である。

【使用目的又は効果】

＜使用目的＞

本品は、電気手術器に接続して使用されるハンド式電極で切開、凝固を目的とする際に使用される。また、本品は滅菌済であるので、そのまま直ちに使用できる。

【使用方法等】

＜使用方法＞

1. 本品は滅菌済みの製品である。開封し、無菌操作法を用いて取り出すこと。
 2. 目的に応じたメス先電極を選択し、ペンシルに接続する。接続する際はペンシルにしっかりと奥まで差し込み、正しく取り付けること。
 3. 電気手術器の電源が投入されていないことを確認したのちにペンシルを電気手術器に接続する。
 4. メス先電極の先端に保護用のカバーが付いている場合はカバーを外すこと。
- * 5. 電気手術器の出力設定を行う。
6. 対極板が適切に装着されていることを確認すること。
 7. ペンシルのハンドスイッチまたはフットスイッチを操作して出力させる。
 8. メス先電極の先端に炭化した組織が付着した場合は、ティップクリーナーにて炭化組織を除去すること。コーティングタイプのメス先電極は、湿らせたスポンジまたはガーゼで炭化した組織を除去すること。

＜使用方法等に関連する使用上の注意＞

1. 使用中の注意事項
 - (1) 必ず目標部位にメス先電極を接触させたのちに出力を開始すること。出力させながらメス先電極を組織に接触させないこと。[メス先電極を組織に接触させない状態で出力した場合、メス先電極の絶縁部分が組織や鋼製器具に接触すると容量結合による意図しない出力、絶縁部の破損・溶解等により、熱傷の危険性が高まるため。]
- * (2) 電気手術器の最大出力電圧が 5500Vp を超えない範囲で使用する。[定格電圧を超えた場合、メス先電極を破損させるおそれがあるため。]
- * (3) ニードル電極を使用するときは、電気手術器の出力値を 30W 未満に設定すること。[ニードル電極が溶解・破損するおそれがある。]
- * (4) 期待する臨床効果が得られない場合、対極板と患者の装着状態不良、メス先電極の炭化物付着、アクティブ附属品の接触不良等が考えられるため、むやみに出力値を上げずに本品を含むアクティブ附属品の外観確認、各部の接続状態の確認などの原因調査を行った上で異常がないことを確認してから出力値を上げること。
- (5) 出力直後のメス先電極先端は何処にも触れないように注意すること。[メス先電極先端部は通常使用においても高温を発熱し、使用直後はかなり蓄熱している。皮膚に接触すれば熱傷し、手術用ドレープやガーゼ、気化ガスなど可燃性物質に引火する可能性があるため。]
- * (6) 本品を使用しないときは、常に絶縁された安全な場所(絶縁ケースの中、器械台の上等)に置き、患者の上に置いたり、術者に接触しないようにすること。ケースに入れる場合は単品で入れ、特に金属製の器具を同一のケースに入れることは絶対に避けること。[偶発的な通電等により患者が負傷したり、可燃物に引火するおそれがある。]
- * (7) 鋼製器具にメス先電極を接触させて使用する場合は、次の点に注意して使用すること。[メス先電極と鋼製器具との間で放電が発生すると術者や介助者、手術スタッフが感電または熱傷を負ったり、メス先電極が破損・溶解する可能性がある。]
1. メス先電極を鋼製器具に確実に接触させてから出力すること。
 2. 鋼製器具はしっかりと握り、手と鋼製器具の接触面を十分に確保すること。
 3. ブレードタイプのメス先電極は平らな面を鋼製器具に接触させること。
- * (8) 出力中はメス先電極を他の機器のコードなどの導体に接触させないこと。[機器の破損、熱傷のおそれがある。]

- (9) メス先電極はペンシルへ確実に差し込むこと。[差し込みが不十分だとペンシル内部で放電が起こり高熱を発生するおそれがあるため。]
 - (10) メス先電極を交換する際はペンシルのハンドスイッチを誤って押さないように注意すること。[意図しない出力が発生するおそれがある。]
- * (11) メス先電極を曲げて使用する場合は、先端部分のみを曲げ軸は曲げないこと。メス先電極を 90° 以上に曲げないこと。また、一度曲げたメス先電極を曲げ直さないこと。[メス先電極が折損するおそれがある。]
2. 使用後の注意事項
 - (1) 使用を終えるときは電気手術器の電源を OFF にしたのちに本品を取り外すこと。
 3. 婦人科用メス先電極の使用に関する注意事項
 - (1) ループ電極は、子宮頸部の病変部(子宮頸部上皮内腫瘍[CIN]、コンジローマ、嚢胞など)の切除およびその他の婦人科疾患の組織生検に使用する電極である。腸、大網、角膜などの組織には使用しないこと。ループ電極は、切開モードで使用する。出力値は 20W~30W の純粋切開を推奨する。
 - (2) ボール電極(型番: 60-5181-102、60-5181-103)は、ループ電極で切除した切除面を止血するための電極である。出血部位の接触凝固では、電気手術器の出力値は 25~35W を推奨する。広範囲の出血や切除した組織の縁の部分の凝固には、スプレー凝固が有効であり、出力値は 35~60W を推奨する。
 - (3) 陰鏡にメス先電極を接触させて出力しないこと。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意
 - * (1) 電気手術器の添付文書および取扱説明書、ペンシルの添付文書を必ず参照すること。
 - * (2) 電気手術器の出力値は可能な限り低く設定して、出力時間は最小限とし、電気手術器のデューティーサイクルを超えないこと。[組織等に過度な熱影響を与える可能性があり、高電圧モードを使用すると、高周波分流入が発生しやすくなる。]
 - (3) 鋼製器具の付近で本品を使用する場合、メス先電極と鋼製器具との間で放電が発生し、火花が飛び、鋼製器具またはメス先電極を破損・溶解することがあるので注意して使用すること。
 - * (4) 本品と適合しないペンシルに接続しないこと。[確実に接続できない場合、ペンシル内部で放電が起こり高熱を発生するおそれがある。]
- * 2. 相互作用(他の医薬品・医療機器等との併用に関すること)
 - (1) 併用注意(併用に注意すること)
 1. 電気手術器と生体情報モニタなどを同時に同じ患者に使う場合には、高周波電流制限装置を備えたモニタ装置を用いること。モニタ用電極などは、術野および対極板からできるだけ離して装着すること。定格内の高周波漏れ電流であっても、患者に直接接続するモニタ用電極の面積が小さい場合、発熱・熱傷の可能性があるので、針状の電極は使用しないこと。
3. 不具合・有害事象
 - (1) 重大な不具合
 1. 本品の破損
 - (2) 重大な有害事象
 1. 熱傷

【保管方法及び有効期間等】

- * 1. 保管上の注意
- (1) 水濡れに注意し、高温、多湿、直射日光の当たる場所を避けて常温で保管すること。

(2) 保管環境

温度	10～32℃
湿度	5～70%

＜有効期間＞

* 5 年間[自己認証(当社データ)による]

** 本品のラベルの使用期限を参照すること。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売元

日本メディカルネクスト株式会社

* 電話番号：06-6222-6606

製造元

コンメド社(アメリカ合衆国)

** Linvatec Corporation d/b/a ConMed Linvatec